

—関連施設だより—

海老名総合病院便り

内山喜一郎

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院

A Letter from Ebina General Hospital

Kiichiro Uchiyama

Japan Medical Alliance Ebina General Hospital

昭和48年8月に設立された医療法人社団仁愛会は、日本医科大学昭和42年卒業の同級生7名の協力で誕生しました。海老名総合病院は救急医療を行うことを使命として、10年後の昭和58年9月に神奈川県海老名市に開設されました。当初は10診療科、医師10名（ほとんどが日本医科大学卒業生と大学からの出向医師）で発足しましたが、現在では23診療科5センター（心臓血管、糖尿病、マタニティー、人工関節・リウマチ、内視鏡センター）、医師数117名となりました。日本医科大学からは、麻酔科、外科、放射線科、呼吸器内科、泌尿器科の各科から若い医師の派遣をいただき、新鮮な風と新しい医療情報を提供していただいています。医療者の育成に力を入れる臨床研修指定病院・地域医療支援病院でもあります。医科研修医は1学年6名で計12名（毎年フルマッチ）、歯科は1学年のみ1名です。このほか、多くの看護学校、薬科大学、理学療法士養成校、救急救命士、医療事務など年間500人ほどの研修生を受け入れています。

平成15年に法人名を仁愛会から現在のジャパンメディカルアライアンスに変更しました。アライアンスとは、法人内各施設がゆるやかに繋がりながら、保健医療福祉複合体としてそれぞれの特性を活かして活動することを意味します。病院の理念は「仁愛の精神のもとに、皆さまと共に考える医療をめざします」です。チーム医療を大切に、厚労省の掲げる5疾病5事業の内、精神科診療とへき地医療を除いた4疾病4事業に注力しています。とくに救急医療は当院の基本で、神奈川県県央二次医療圏（人口約86万人）の急性期基幹病院として地域医療の中核を成しています。行政や医師会、医療介護施設とも密接に連携し、昨年は海老名市、海老名市医師会と共催で全国的にも珍しい行政と民間が協力した大規模災害対策訓練を実施しました。



The exterior of Ebina General Hospital

連絡先：内山喜一郎 〒243-0433 神奈川県海老名市河原口1320 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院院長

URL: <http://www.jinai.jp>

E-mail: k_uchiyama@jin-ai.or.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

平成 24 年度の診療実績を示します。病床は一般 469 床（他に ICU10 床、無菌治療室 9 床）、手術室 10 室（内日帰り手術室 2 室）、看護基準 7:1、DPC III 群、新入院患者数 957 人/月、平均入院患者数 375 人/日、平均在院日数 12.1 日、外来患者数 319.3 人/日、救急車搬入件数 6,059 件/年、総手術件数 4,923 件/年です。平成 25 年度は新入院患者数が 1,000 名/月を超えるようになり、平成 26 年 1 月までに救急車搬入件数 6,500 件超、総手術件数 5,000 件超となりました。

平成 26 年度診療報酬改定や医療法の改正を受け、当院は高度急性期病院（DPC II 群）を目指して組織体制を強化する予定です。過去の病院経営は護送船団方式と言われ、あまり経営を意識せずとも収益を上げることができましたが、現在では安定的な病院経営をするためにはしっかりと組織作りが必要です。まずは病院の理念、価値観、ビジョンの浸透が重要です。

当院は平成 22 年に経営戦略ツールとして Balanced Score Card (BSC) を導入しました。BSC では 4 つの視点（学習と成長、業務プロセス、顧客、そして財務）で経営戦略を考え、戦略マップとアクションプランを作成します。前 3 つの視点を順に達成して行けば、財務の目標は自ずと達成できるというものです。平成 24 年度には診療部を含む院内全部署に展開しました。お陰で経営の可視化ができ、チーム力はアップ、平成 24 年度の経常利益率は 5.9% を記録しました。さらに戦略マップを回す、すなわち PDCA サイクルを回してアクションプランを実行するために業務改善 (Quality Control, QC) 手法を用い、経営の軸を BSC, QC の 2 本としました。BSC では年に二回、レビューを行います。一日 3 時間、4 日間かかります。各科がここでアクションプランの進捗を発表し、それを職員が皆で聞き、質疑応答をします。和やかな会となり、情報の共有とコミュニケーションが高まります。平成 25 年度には、コミュニケーションを深める手法としてコーチングも導入し、副院長、看護副部長ら 5 名が半年間コーチングに取り組みました。継続して院内に普及させますが、これからの医療には必須のアイテムだと考えています。

これらの取り組みを行い、試行錯誤しながら病院は前に進んでいます。安定した経営の元でなければ地域中核病院の任は果たせません。職員一同、日本医科大学特定関連病院の名に恥じないよう日々研鑽に努めてまいります。これからも皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

(受付：2014 年 3 月 26 日)